

# 防振くん

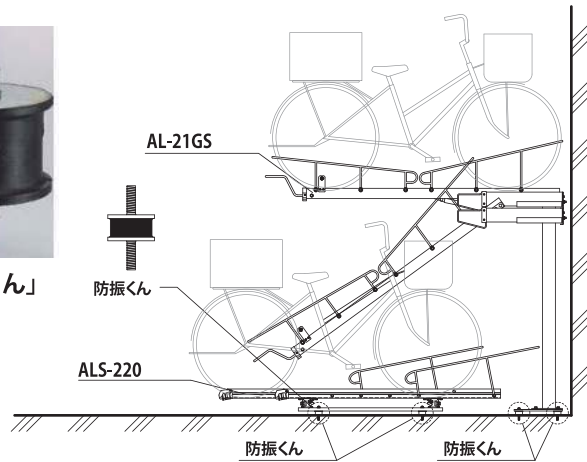
階上への騒音を減少させます。

「防振くん」とは、サイクルラック動作時に床を伝って振動音が伝わる「伝播音」を防ぐための製品です。

サイクルラックと床の間に「防振くん」を挟み固定することで、ゴムによる減衰効果により階上への騒音を減少させます。



「防振くん」



## 「防振くん」設置状況



## 「防振くん」の効果

「防振くん」を設置した場合、直上階(2階)での騒音を低減することができました。一般的に10dB数値が下がると、音量は半分になるといわれます。

-ラック種別-  
**AL-21G**

▼自転車を受納した場合 (dB)

	防振くん有	防振くん無	
1階で測定	80.8	85.8	低減量
2階で測定	21.9	36.8	<b>14.9</b>

▽自転車を受納していない場合 (dB)

	防振くん有	防振くん無	
1階で測定	85.8	91.9	低減量
2階で測定	24.2	41.2	<b>17.0</b>

-ラック種別-  
**ALS-220**

▼自転車を受納した場合 (dB)

	防振くん有	防振くん無	
1階で測定	81.0	83.9	低減量
2階で測定	21.6	29.1	<b>7.5</b>

▽自転車を受納していない場合 (dB)

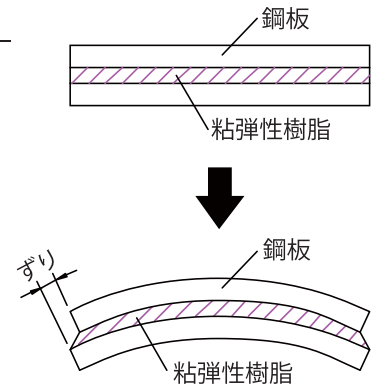
	防振くん有	防振くん無	
1階で測定	87.0	87.0	低減量
2階で測定	21.0	28.6	<b>14.9</b>



# 制振鋼板

雨音による騒音を軽減します。

制振鋼板とは、2枚の鋼板の間に約40～60μm厚の粘弾性樹脂をサンドイッチした構造からなります。制振効果は、この樹脂のずり変形によって、熱エネルギーに変換されることによって起こります。サイクルルーフ屋根材として使用することで、雨音による騒音を軽減することが出来ます。



## 散水試験

雨音低減効果を確認するため、屋根材に散水を行い、弊社標準屋根材ガルバリウム鋼板と比較試験を実施しました。



■試験配置状況

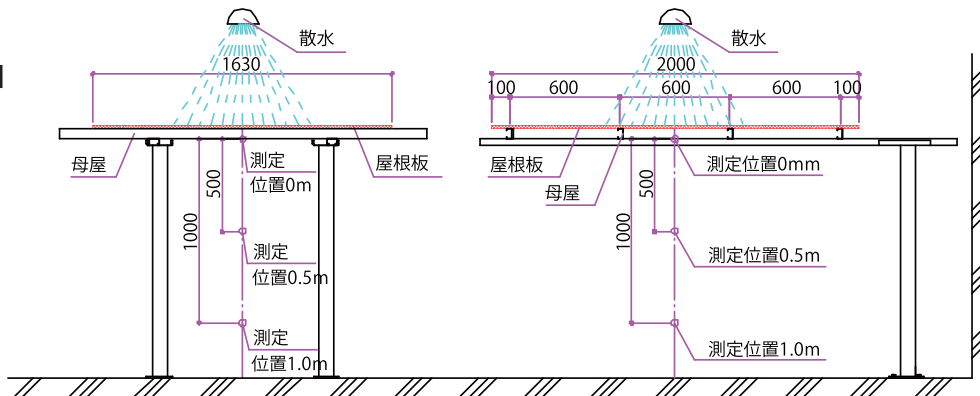


■散水状況(制振鋼板)



■散水状況(ガルバリウム鋼板)

### [試験方法]



### [散水試験結果]

(dB)

水量	大			小		
	0m	0.5m	1.0m	0m	0.5m	1.0m
測定位置 (屋根板からの離れ)	0m	0.5m	1.0m	0m	0.5m	1.0m
制振鋼板	73	67	64	74	67	65
ガルバリウム鋼板	82	75	73	84	76	74
差	9	8	9	10	9	9

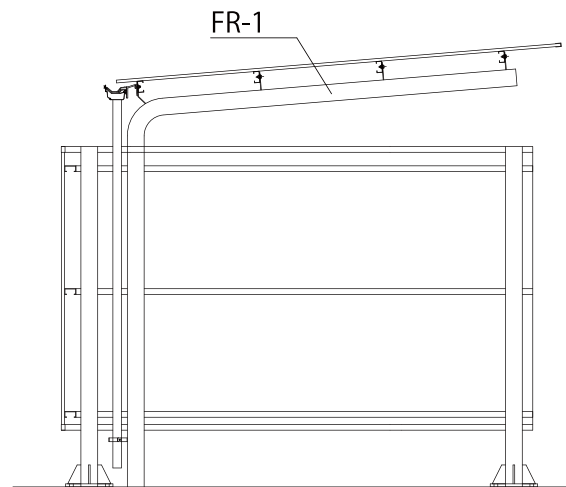
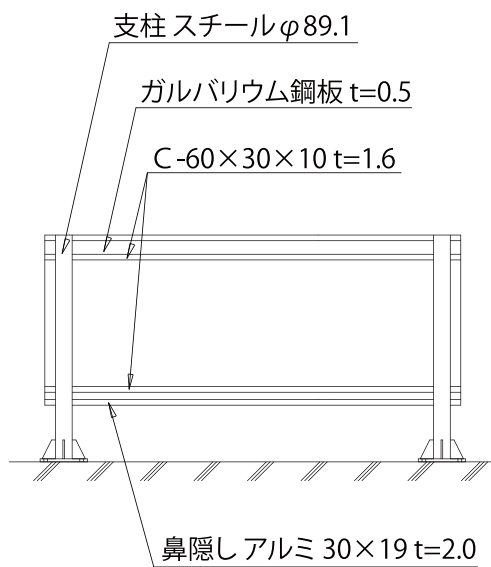
試験結果はどの箇所でも約10dB制振鋼板のほうが低い結果となりました。

この10dBという差は、音量でいうと2倍の差ということになります。

ですので、「制振鋼板はガルバリウム鋼板の1/2の雨音低減効果がある」と言えます。

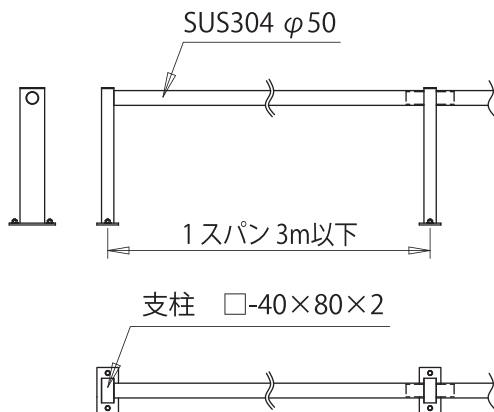
## 背面・側面パネル

景観性、周辺との遮視性と雨の吹き込みに対応できます。



## 車止め TBP-1

シンプルな構造で、自由なレイアウトが可能。



## 取扱説明ボード

サイクルラックを快適にお使いいただくため、取扱説明をわかりやすくしました。

※ラック種類別にボードの内容は変わります。イラストを使用し、簡単にわかりやすい内容となっています。



### ■ サイズ：A1

(高さ 594mm  
× 幅 840mm  
× 厚み 3mm)

### ■ 塩ビ素材

(アルミ複合板)

### 2 段式サイクルラック+スライド式サイクルラックの使い方

#### 上段の果せ方

- 1 頭上に注意し、自転車を左右に押し広げる  
スライドラックも足で踏らず、手で広げて下さい
- 2 右手で上段ストッパーを右に回しながら、左手で取っ手を引く  
上段ストッパー
- 3 ラックが完全に止まるまで引いた後、取っ手を下に降ろす  
ラックを降ろし閉めるまで手を離さないで下さい
- 4 自転車をゆっくりに乗せる  
反動を使って勢いよく乗せたり、体重をかけたりにしないで下さい
- 5 手を離さず、両手で持ち上げながら収納  
自転車を完全に収納するまでは、手を離さないで下さい

#### 上段の降ろし方

- 1 頭上に注意し、自転車を左右に押し広げる  
スライドラックも足で踏らず、手で広げて下さい
- 2 右手で上段ストッパーを右に回しながら、左手で取っ手を引く  
上段ストッパー
- 3 ラックが完全に止まるまで引いた後、取っ手を下に降ろす  
上段取っ手
- 4 ラックから手を離さずゆっくりに降ろす  
自転車が完全に下がって止まるまでは、ラックから手を離さないで下さい
- 5 降欄から自転車を引き降ろす  
自転車を降ろしたら、ラックを元に戻して下さい

#### 下段の入れ方

- 1 頭上に注意し、自転車を左右に押し広げる  
スライドラックを踏らず、手で広げて下さい
- 2 自転車の前輪をラックに入れる
- 3 まっすぐ奥まで入れる

#### 下段の出し方

※出すときは頭上に注意して下さい

#### 注意

- ・操作の際には隣の自転車に接触しないようご注意ください。
- ・上段のラック操作中は落下につながり危険ですので、絶対に上段取っ手から手をはなさないで下さい。
- ・お客様の上段ラックの使用はできるだけご遠慮下さい。
- ・事故につながりますので、他の方が操作されている際には操作はしないで下さい。
- ・下段のスライドラックを押す時は、勢いをつけすぎたり、無理な動作をしないで下さい。
- ・自転車やラックの故障につながりますので、自転車のハンドルやペダル等が隣の自転車に接触した場合は、無理な操作をしたり、無理に取り外さないで下さい。
- ・自転車の収納以外には使用しないで下さい。
- ・お客様がご利用になる場合は、保護者の方がこの注意事項の内容をご説明願います。
- ・ラック、もしくはラック付近で遊ばないで下さい。

サスサンパブリック 03-3456-6681

## ガードパイプ

転倒時に自転車をサポートし、安全性を高めます。

